

# ～「もったいない！食品ロスを楽しく自分事として取り組むサルベージパーティー®について（取組事例のご紹介他）」～ サルベージプロデューサー 平田 誠子

## 1 サルベージプロデューサーとは

「サルベージ」とは、「救う」などの意味があり、食品ロスを「捨てる」から「救う」にするために、広島県で唯一のサルベージプロデューサーとして活動している。

ライフオーガナイザー®やリユースマスター®インストラクターとして捨てるからはじめない片付け方をお伝えしていく仕事をしている日々の中で、日本人は「もったいない」と言いながら物はもちろん、その中でもだれもの暮らしにある食品を捨ててしまうことも多いと感じ、もっと自分事として自らがアクションを起こす側として食品ロスに取り組んでいきたいという思いが生まれ、サルベージプロデューサーとなった。

広島でのサルベージプロデューサーとしてもまだまだこれからであると考えている。これから広島でも皆様に知っていただけるよう、食品ロスのアクションをおこしたい人と共働して、もっと身近なことから取り組めることはたくさんあり、楽しく活動を家庭で・地域で取り組みやすいことだということを広めていきたいという思いで活動している。

## 2 サルベージパーティー®とは

「食品ロス」という言葉は全国的に知られるようになっており、全国的にもさまざまな取組が行われるようになってきているが、食品ロスの問題を難しいこととして考えるのではなく、楽しみながら自分事として取り組むことができる活動の一つがサルベージパーティー®（以下略サルパ）である。

サルパは、参加者の方が家庭で余っている食材を持ち寄り、シェフやサルベージプロデューサー、参加者のみんなでどんな料理ができるかを考え、調理をするというものである。

取組事例としては、足立区から一般社団法人フードサルベージに開催の依頼があり、サルパを行った事例がある。告知等は、区で行い、会場の設営や司会進行のキャスティング等は、フードサルベージが行った。その他、富山県としての取組や東京都の小学校等でも開催されている。小学校での開催では、親子を対象とし、子ども達も自分たちで持ってきた食材でシェフが調理した料理を、メニュー名を考えて発表などすることで、「普段食べられないものを食べることができた」など嬉しい感想があり、食育の面でもいろんな企画として行えるのではないかと思った。広島においては、三次市での開催や、横川の「駱駝カフェ」での開催実績がある。駱駝カフェでの開催の際には、サルパとあわせてフォトグラファーの方による、スマホでのフォトレッスンを実施し、若い世代や女性にも興味を持ってもらえるような企画とした。

## 3 今後の課題と想い

サルパは、家庭などからでも取り組むことができる活動であることや楽しみながら取り組めることだということを伝えるように活動をしていく。

食品ロスは、老若男女問わない問題であるため、その地域や、人に合わせた企画を行うことや、若い世代も参加がしたくなるようなイベントを企画し、各分野のプロの方々とコラボをするような企画で認知度を広げていきたい。また、広島ならではの取り組み方や、商品開発を行っていききたいと思っている。